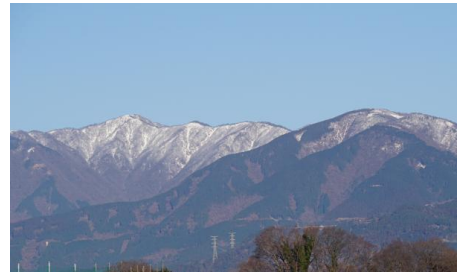


<富士だけでなく>キャンパスからは四季折々に変化する丹沢の山なみを望めます。右の写真は南岸低気圧が通過した翌日(16日)の雪を冠った大山(右側)と三ノ塔(左側)です。丹沢山系とりわけ大山は昔から山岳信仰の霊山とされてきました。大山は“阿夫利(あふり)山”、“雨降(あふ)り山”とも言い阿夫利神社には雨乞いの神が祀られています。江戸時代には“大山詣り”をしてから江ノ島に詣でるのが庶民の大きな楽しみ



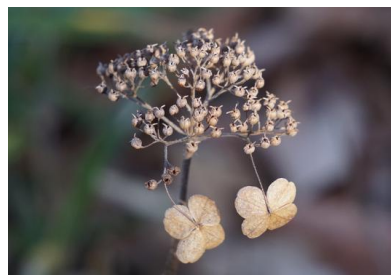
のひとつだったようで古典落語の演目にもあるほどです。

<夏の名残り>この時期に冬枯れの雑木林では喬木の幹にとり付き高くまで立ち上がっているキヅタが目立ちます。青々とした葉を茂らせて同じ色の実を付けています。その一つの葉に蝉の抜け殻を見つけました。十日ばかりの夏の命の名残りです。“名残り”といえは枯れたままの花を付けたヤマアジサイが丘の斜面の窪みに広がっています。桜と違い



<キヅタ 2題>

「潔しとしない」かどうかは別に
して趣があります。もう一つ、夏の花時には藪の中で見落としていたのがタンキリマメです。艶のある黒い豆をまだ残しています。



<ヤマアジサイのドライフラワー>

<タンキリマメの実>

<霜化粧—その 2>右の写真はスギゴケの葉に沿って育った霜です。よく見ると背の高いものだけに霜が付いています。背の低いものは周りから守られているような……。



<隈取(くまどり)>林の縁ではモズが枯草の斜面に降りては冬枯れの梢にもどるといふ動きを繰り返し、時には梢にじつと留まり周りを見渡しています。モズ(♂)は眼の前後に引かれた横一線の黒い隈取が特徴



<モズ(♂)>

でその精悍さが際立ちます。歌舞伎の黒い隈取は赤と同じく猛々しさを感じさせますがこれに加えて悪役のイメージです。モズの“高啼き”を聴き“早贄(はやにえ：カエルや昆虫を小枝の先に突き刺したもの)”を見らるとなるほどと思ったりもします。「鴟(もず)木に鳴けば雀和するや蔵の上」の子規もそう感じたのでしょうか。ところが昔話では、モズはホトトギスに借りがあって毎年「本尊掛けたか」とか「採って掛けたか」(早贄のこと)と鳴かれて催促されるいささか可哀そうな鳥なのです。(文と写真：松本正勝)